

博多祇園山笠の歴史とこれからの展開

History and expansion of Hakata gion yamagasa festival

1K05B152

指導教員

主査 寒川恒夫先生

豊田 将万

副査 中竹竜二先生

<第1章・序章>

私の生まれ育った故郷の福岡の祭りである「博多祇園山笠」。福岡・博多の伝統的な奉納行事であり、今年で 766 年を迎える博多区の櫛田神社の祭神を祀る奉納行事である。山笠を担いで市内を回ることを、山笠を「舁く」と言い、担ぐ人のことを「舁き手」という。

スケジュールとしては7月 1 日の飾り山公開(早朝)当番町のお潮井とり(夕方官崎官浜)から始まり「舁き山」を動かす行事である、流れカキ(7月 10 日)朝山(7月 11 日)追い山ならし(7月 12 日)集団山見せ(7月 13 日)流れカキ(7月 14 日)追い山(7月 14 日)と2週間以上にわたって盛大に行われる。この祭りは日本のみならず現在世界にまで羽ばたいている。

こうした地域に根付いた祭りが世界へ羽ばたいていくこととなった背景と共に「博多祇園山笠」の歴史や博多の歴史、そして「博多祇園山笠」の流れやしきたり、楽しむためのガイドやこれから更に発展していくためにどのようにすれば良いか展開していく。

<第2章・博多祇園山笠の歴史、博多山笠とは？>

第1節・博多の誕生、博多祇園山笠の歩んだ歴史

狭義の「博多」は、考古学者の故中山平次郎氏の説によると、平安時代末期、平清盛が対宋貿易などのために築いた「袖の湊」が起源で、以後、鎌倉、室町時代を通して天竜寺船、勘合船貿易などで繁栄。戦国大名にとっては垂ぜんの

的となり、争奪戦の末に幾度となくしゅ焦土と化します。博多の再興に乗り出したのが豊臣秀吉で、一五八七年、島津攻めの後、博多郊外の箱崎に滞陣、「博多町割(再興)」を命じました。今はお祭りの楽しさが知られ、区域外からの参加が増え、安定していますが、三十年ぐらい前までは人員不足に悩みました。追い山ならしなどで後ろの大黒流に追いつかれることが何回もありました。そのたびに大黒流は山笠を止め、待ってくれました。迷惑なことだったでしょう。なお、区域外の参加者については、町内に引き受け手が必要です。本人は法被などを借りて二、三年、行事に参加しながら「教育」を受けることになります。山笠は危険を伴い、上下関係も厳しく、勉強することはたくさんあります。ここを経験すると、法被などの購入が認められ、正式な舁き手となれるのです。

第2節・博多祇園山笠とはどんな祭りなのか？

博多の町は十四日夕から十五日早朝にかけて徐々に興奮の度を強めます。私の流(土居流)の場合、十四日午後五時から約一時間、流として最後の流舁きがあります。例大祭が終わると、「追い山」まで一時間弱。神社の周囲は舁き手と見物の人とでごった返します。場内放送が「櫛田入りまで三十分」「十分」と告げると、ざわめきが次第に大きくなります。「あと五分」「あと一分」に続いて「二十秒前」「十秒前」「五秒前」と秒読みに入ると、「ウォー」という何とも表現し難い声も上がります。そして午前四時五十九分、満を持していた一番山笠が大太鼓の合図に「オイッサ」「オイッサ」の掛け声とともにどっと櫛田入り。清道旗を回ったところで山笠を止め、一番山笠に認められた

「博多祝い唄」をみんなで歌います。

＜第3章・博多祇園山笠の周辺知識および第4章・博多祇園山笠のこれからの課題＞

櫛田神社前の土居通り沿いの十ヵ町(旧町名)で構成。上新川端町、大乘寺前、上土居町、中土居町、下土居町、片土居町、川口町、行町、浜小路、西方寺前町。昭和四十一年の博多地区の町界町名整理事業で全町名が消滅。三ブ

ロックに分けて当番してきたが、数年前から昔ながらの「一町」当番制に復した。7つのコースが存在する。様々なことを踏まえつつ、祭りというものはそもそも参加する人達で築き上げていくものなので、水物でもあります。まずは現在参加している人達の協力や理解があつての祭りです。こうした伝統を踏まえつつ、なおかつモラルの向上を促していくことで、より後世に伝えていくことの出来る祭りへと進化していくでしょう。